

現在開催中の企画展「長沢芦雪展」では、和歌山県にある無量寺が所蔵する障壁画を展示しています。この障壁画は、1786年10月頃に、芦雪が師の円山応挙の名代として作品を届けに南紀に赴いて翌年2月中旬まで滞在した折、現地の寺院や個人のために制作した作品群の1つで、芦雪33歳の作品です。今回の展覧会では、この無量寺の仏間を中心とした寺院建築を再現し、障壁画を展示しています。

この再現にあたっては、施工を請け負ったディスプレイ会社が、建物の約10分の1の縮小模型を作りました。現場でも模型を見ながら再現に取り組みました。



施工風景

愛知県美術館では、長沢芦雪展会期中の11月に各種教育プログラムを実施します。そこで、精巧に作られたこの建築模型を、視覚に障害のある方との鑑賞会で活用する案が浮上しました。コレクションの彫刻作品を直接触察する従来の鑑賞に加えて、模型に触れながら芦雪の作品の鑑賞が出来たら、臨場感ある鑑賞が出来るに違いありません。

そこで、現在、高校生プログラムを準備中の高校教員と大学生にも協力を依頼し、コラボすることにしました。実は、この高校生プログラムでも、障壁画の虎図を参考に水墨画を体験し、襖と仏間に見立てた紙材で、ミニチュアの空間を再現することになっています。

こうして、高校教員の指導の下で大学生が集まり、模型を作りこむことになりました。



ささくれをサンドペーパーでとる作業



欄間の取り付け



仏間の飾りつけ



紙粘土による仏間の欄間



襖の引手部分

模型に貼られた襖の画像は、無量寺で発行している図録の付録にあった展開図を模型に合わせて拡大しています。襖を模型にはめ込む作業は苦勞したとのこと。合板のままの模型では木のささくれなどで触察が厳しいことが問題でしたが、サンドペーパーをかけ着色して滑らかな手触りにしています。また、仏間の欄間は紙粘土で成形して色彩とニスを塗るなどして、手の込んだ作業となっています。紐飾り、畳など、100均ショップで集めた材料ながら、見かけは本物に迫る出来栄です。4時間ずつ3日で作業し、見事仕上がりました。先生、大学生の皆さんご協力有難うございました！



完成

せっかくの出来栄なので、是非、ご来館の多くの皆様にも見ていただきたく、フォトスポットに設置することにしました。展示室では実物を撮影できませんが、展示室外のこの模型なら撮影OKです。写真に撮ってみると、本物に見まごうばかり。是非フォトスポットにお越しください！

(M.F.)